藤沢
エコネット
藤沢環境運動市民連絡会議
（略称）藤沢エコネット

２０２４年１２月１日
第３６７号

主な記事
- 第27回ふじさわ環境フェア
- ふじさわ７ 月８ 月の平均気温が過去最高に（第２回）
- 冬の到来、全国でガンカモ調査
- 大気測定

http://econet2015.sakura.ne.jp
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎／ＦＡＸ　0466－87－4922

再エネ発電を抑制する国の電力政策の問題点

～作った太陽光発電を、捨させるような国の愚策を止めさせよう～

気候危機が切迫する下で、多くの市民が自費で太陽光発電を進めている中で、政府はいっそう脱炭素社会を目指さなければならないのに、口とは裏腹な政策をすすめている事態を指摘しなければならない。

今日、我が国の電力供給は、大手電力会社による火力発電、原発発電、市民・民間業者による太陽光発電等によって成り立っている。こうした中で、国全体の電力供給の実質を握る大手電力会社は、需給バランスの取り方として、供給量が増えた場合は、自社の火力発電や原発の発電量を減らすのでは無く、市民がＣＯ２削減のために作った太陽光電力を、余った電力として捨ててしまっているのである。市民が自費を投じて作った太陽光電力を、大手電力会社の出力調整弁として、余ったら捨てるとは何事かと言わざるをえない。

剰余発電が出た場合の国の電力政策は、火力発電や原発の発電量を抑制した上で供給が需要を上回る場合は、再エネの発電を止めることができるとしている。(優先供給ルール)。しかし、こうした政策で、原発の出力抑制の実績はなく、火力発電の出力抑制も不十分で、逆に、政府の政策が、原発推進、火力発電温存の法的根拠に使われて居るのが現状である。国は脱炭素社会の実現、省エネ発電推進を口では言いながら、実態は、省エネ発電を出力抑制に使う一方、火力発電温存、原子力発電は推進するという矛盾した政策を進めているところに問題がある。

今年、アルゼバイジャンで開かれたCOP29でも、世界的規模で気候危機が進んでいる事態が、数多く報告されている。気候危機の進行を一刻も早く食いとめるためには、再エネ発電の推進がますます急務なっていると言わなければならない。世界では、欧州各国を中心に、再エネ発電の導入が進んでいるのに、先進国の中で、日本は米国に次いで２番目に低い再エネ導入国となっている。米国に追従し、原発と火力発電に依拠している為である。原発の被害に泣き、資源の乏しい日本で、何時までも原発や火力発電に頼っているのは許されない。こうした国の姿勢を正し、世界の脱炭素社会の実現に貢献する為には、今後、市民のたたかいがますます重要になって来ていると言えるだろう。(小林麻須男)

（黄色に色づいた湘南台公園のイチョウ）

第 27 回ふじさわ環境フェア Eco²(エコエコ)まつり２０２４開催

～11 月９日藤沢市民会館（前庭･第1展示ホール）～

ふじさわ環境フェアーは、天候にも恵まれ多くの市民参加があり、環境保全や地球温暖化防止をテーマに、市民・事業者・大学・行政が協働し、子どもから大人まで楽しみながら学べるイベントでした。

テーマ：**「地球に COOL(クール)なそよ風を ～今日の気づきが未来を変える～」**　これまでテーマは企画運営委員会で決めていましたが、今年からは市民公募をし、中道あすかさんの提案に決まりました。未来の地球を変える気づきの１日になってほしいという願いを込めて、言葉を選んだとのことです。

オープニング

前庭は終日賑やか

書道家の大作

室内展示

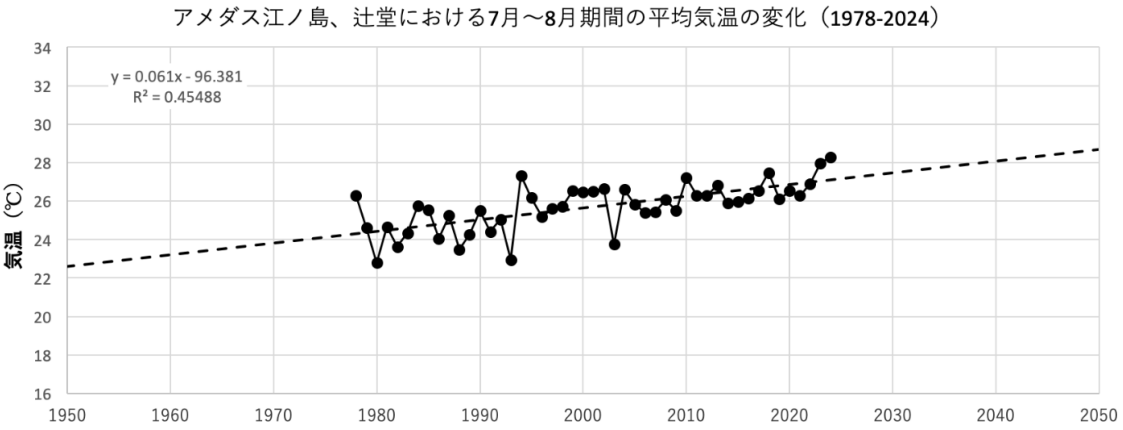
ごみの収集、僕も体験

前庭展示

藤沢７月８月の平均気温が過去最高に超異常な暑い夏（第２回）

地球温暖化との関係

地球温暖化の進行を背景として、今夏の気温は過去最高を記録しました。日平均気温の 7/8 月を通した平均気温について、過去 46 年間のトレンドを示したのが下図です。破線は 46 年間の回帰直線です



7/8 月の平均気温上昇率は、図中の回帰式から分かるように 10 年で約 0.6℃の割合です。これは、藤沢市周辺における地球温暖化の一端を表しています。「地球温暖化の一端」とした表現の理由は次の通りです。

- 気象庁は、江ノ島も辻堂も地球温暖化を観測する対象地点に選定していません。理由は、都市化を含む土地利用変化の影響がある地点と考えられるためで、これは国際的な合意に基づいています。

- すなわち、46 年間に 5.5℃の気温上昇は、地球温暖化と土地利用変化が重なって現れた現象です。単純に外挿すると、私たちに身近な藤沢周辺では、地球温暖化といわゆる都市化の影響が進み、2050 年頃には夏の平均気温が今より２℃ほど上昇するでしょう。

- 日本ではどの地点が地球温暖化の評価対象になっているでしょう。下の気象庁サイトを参照して下さい（https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/clc_jpn.html）（NPO クライメイト・ウォッチ・スクェア林陽生）

冬の到来、全国でガンカモ調査

11 月に入って木枯らし１号が吹いて、急に冬のきざしが増えてきました。今年は 10 月下旬にも夏日を記録したため、これでは冬鳥は来てくれるのだろうかと心配したものでした。実はこれは杞憂で、野鳥の同好誌によれば、あの熱い９月にすでに冬鳥のカモ類が藤沢市内で見られたとのこと、すこし意外です。とはいえ 11 月はじめに自宅から散歩で行ける境川・ 今田遊水地に行くと、コガモ、ハシビロガモが見えました。そこでさらに下流にいくとマガモ、そして河口に近づくとヒドリガモがいました。

温暖化した中でも野鳥は暦通りの渡りを行うことには感心させられます。カモ類に限らず、渡りがどのように行われるのか最近研究が進んでいるそうです。機会があれば是非研究者に聞きたいものです。

今田遊水池で見られたハシビロガモ♂

暑い日本でも暦通りに渡ってくるのですから、きっと気温が渡りのきっかけではないのでしょう。ならば日長時間でしょうか？そのことはおくとして、冬鳥がこの周辺にやってきたとして温暖化した環境で食糧に困らないのでしょうか？カモの仲間の多くは冬鳥で春にはシベリア方面に向かいます。春までに大いに食べて体力を蓄え、渡りと繁殖の準備をしなければ

なりません。せめて日本の自然を大切にし、渡り鳥が安心して冬を過ごせる環境を守りたいものです。

毎年１月中旬に環境省は「ガンカモ生息調査」を行います。1970 年から続き「湿地の保全や鳥獣保護区の設定等」のため、行ってきました。全国の自治体でボランティアで行うもので、藤沢では１月 11 日（土）８時半から「ガンカモカウント」として実施し、場所は引地川河口から大庭の城下橋まで徒歩での調査だそうです。　（菅谷　芳雄）

境川の支流柏尾川のヒドリガモ♀・♂（11 月初旬）

大気測定（藤沢の空気を考える会）

毎年６月と 12 月に大気測定（二酸化窒素 NO2）をしています。2023 年 12 月の結果は藤沢市内平均 0.036 ppm で、環境基準 0.04～0.06ｐｐｍ以下をクリアーしていました。　（青柳節子）

	件数	道路沿	件数	非道路	合計	平均
片瀬	1	0.02	4	0.018	5	0.018
鵠沼			5	0.025	5	0.025
辻堂	1	0.06	10	0.044	11	0.045
村岡	2	0.02	2	0.02	4	0.02
藤沢	14	0.045	3	0.023	17	0.041
明治	7	0.037			7	0.037
善行	2	0.02	3	0.023	5	0.022
湘大庭	13	0.053	5	0.054	18	0.053
六会	7	0.037	10	0.026	17	0.031
湘南台	9	0.037	5	0.038	14	0.037
遠藤			10	0.023	10	0.023
長後	1	0.08			1	0.08
御所見	5	0.032			5	0.032
藤沢市	62	0.040	57	0.029	119	0.036
鎌倉	5	0.052	6	0.033	11	0.042

jECONET　INFORMATION

▲ふじさわ･不戦のちかい　平和行動

12 月 8 日(日)13:00～14:30　辻堂駅北口デッキ

子どもたちに「戦争しない国」を手渡したい

☆市民と議員で不戦のちかいを訴え、平和を歌おう☆

▲ペロブスカイト太陽電池が拓く　エネルギーの未来

12 月 13 日(金)15:00～17:00　ミナパーク6F

多目的ホール

宮坂力氏(桐蔭横浜大学医用工学部　特任教授)

▲くらしフェスタ　12 月 15 日(日)1:30～15:00

Ｆプレイス　体育館ほか　入場無料

「マイクロプラスチックストーリー　僕らが作る 2050 年」上映

ローリングストック講座･お菓子づくり(事前予約制)など

主催 みんなの消費生活展実行委員会･藤沢市

▲パブリックコメント実施

①藤沢市健康増進計画(第 3 次)(素案)

②第 4 次藤沢市食育推進計画(素案)

③第 4 次藤沢市公共施設再整備プラン(素案)

素案の閲覧は市役所総合案内　各市民センター･公民館

①　②は 12 月 17 日までに　③は 12 月 20 日までに

市の HP からまたは郵送･FAX･持参

①　②は健康づくり課

③は企画政策課へ

▲藤沢エコネットから

◆会員募集　年会費･購読料→2000円

◆事務局会議　１月４日（土）10:00 六会公民館

《編集後記》2024 年師走。今年の新語・流行語大賞は「不適切にもほどがある！」の「ふてほど」が、トップテンには「裏金問題」が入った。衆院選で与党半数割れとなるなど裏金問題は政治を大きく揺るがした。　SNS の問題点も話題に。いじめ中傷などは従来から言われていたが、政治情勢を変えるほどの力を発揮するようになった。現在の TV,新聞などマスコミの姿勢にも問題があり、信頼が薄れてきている。（A）